

歴史散歩

青巖寺

一志町小山の山麓にある青巖寺。寺伝によ
 ると、古くは紫雲山慈恩寺という名の密教寺
 院で、伊勢国司北畠氏の祈願寺でした。慈恩
 寺は戦国時代の戦火で荒廃しましたが、その
 後、名を改めて誓願寺として再興されました。
 現在の青巖寺という名前になったのは、元文
 4(1739)年と伝えられています。

青巖寺には多くの文化財が残されていて、
 その中でも青巖寺本堂、木造阿弥陀如来立像、
 青巖寺古文書、絹本着色仏涅槃図、絹本着色
 聖徳太子及び浄土高僧連坐像の5件が市指定
 の有形文化財になっています。



青巖寺本堂全景

本堂が見えてきます。慶安4(1651)年11
 月に尾張徳川家
 2代徳川光友の
 三男松平義昌が
 青巖寺で誕生し
 たことから、元
 禄5(1692)
 年、光友によつ
 てこの本堂が建
 立されました。
 建坪は90坪余り
 で総ひのき造り、



本堂内陣

内陣の漆箔円柱は上
 部から全て極彩色が
 施され、豪華絢爛な
 元禄時代の建物の特
 色を示しています。
 本尊の木造阿弥陀如
 来立像は、像高77cm、
 材質はヒノキで構造
 は寄木造、端麗な姿
 を示していて、作風か

ら制作は鎌倉時代と考えられています。

青巖寺古文書は2通あり、1通は天正12
 (1584)年4月17日のものです。天正12年
 は本能寺の変から2年後に当たり、全国的に
 混乱が続く中、この地域では戸木の木造氏を
 豊臣秀吉方の蒲生氏郷が攻める戸木城籠城戦
 が行われていました。この文書は蒲生氏郷方
 の与力であった沢氏と秋山氏が、味方の軍勢
 に小山の郷の住民に対して乱暴、狼藉をしな
 いように指図したものです。もう1通は、関
 ケ原の戦いの前哨戦とされる津城攻めを行つ
 た西軍石田三成方の諸将が、津城落城の翌日、
 慶長5(1600)年8月26日に青巖寺に宿泊
 した際に、小山の安全を守るため部下に禁止
 行為を示した文書です。



絵画の絹本着色仏涅槃図は、釈迦が亡く
 なった時の様子が絹の布に描かれているもの
 です。また絹本着色聖徳太子及び浄土高僧連
 坐像は、画面上部に聖徳太子と4人の侍臣が、
 下部には僧侶11人が描かれています。
 これら市指定有形文化財の他にも、境内を
 見渡すと尾張徳川家とのゆかりを感じ取れる
 三葉葵の紋が入った本堂の鬼瓦や、松平義昌
 が青巖寺で誕生した時に使ったとされる産湯
 井を見ることが出来ます。
 このように現代に伝えられる貴重な文化財
 からは、日本の歴史に大きく関わる事象がこ
 の地域にも影響を及ぼしていたことが分か
 ります。境内にたたずんで、歴史の大きなうね
 りに思いをはせてみてはいかがでしょうか。